

令和2年度 大阪市立今津中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1-2 「中学生チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

1 中学生チャレンジテスト・中学生チャレンジテストplus

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
1 年	学校	238	54.5	56.6	50.9	71.4	59.7	13.5	5.6	9.8	1.2	3.8
	大阪市	—	55.1	56.2	53.3	65.6	62.7	12.4	4.5	8.0	3.0	3.1
	1月13日 大阪府	—	56.1	—	54.0	—	63.8	12.7	—	8.7	—	3.3
2 年	学校	224	58.7	55.4	47.0	54.9	57.2	9.0	4.5	9.4	4.2	3.4
	大阪市	—	57.1	57.9	49.3	49.8	51.7	10.6	4.4	9.4	5.4	4.8
	1月13日 大阪府	—	58.3	57.4	49.4	49.5	52.0	10.1	4.8	10.0	5.8	4.8

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は エネルギー 領域を選択

※ 2年生の社会は B 問題を選択

結果の概要

<1年生>

- ・社会、理科においては、大阪市平均を上回ることができた。
- ・国語、数学、英語においては、大阪府、大阪市平均よりも下回る結果となった。

<2年生>

- ・国語、理科、英語において、大阪府、大阪市平均を上回ることができた。
- ・社会、数学においては、大阪府、大阪市平均よりも下回る結果となった。

<平均無回答率について>

- ・平均点が大阪府、大阪市平均を上回る教科の平均無回答率は低く、逆に下回る教科の平均無回答率は高い。

成果と今後取り組むべき課題

本年の校内研修において、「主体的・対話的で深い学び」をテーマにした研究授業を3回実施する予定である。各教科でこの調査の反省点を分析し、改善点を検討してこの研修を実施する。そして、生徒が学習内容に興味をもち、より効果的な教科指導を模索していきたい。

また、1人1台学習用端末を積極的に活用できるように、教職員への研修、または環境の整備に努めたい。そして、将来的にはこの端末が授業や家庭学習など、幅広く使用できるようにすることで、学力向上に繋がるように活用していきたい。